

正しく使ってますか？ その道具。

近年、高齢者の製品事故が増えています。

近年、高齢者の製品事故（※）が増えています。

高齢者に多い製品事故として、石油ストーブやガスこんろなど身近な消費生活関連製品によるものがあります。平成23年度から27年度までの5年間に1,284件の事故が起き、そのために103人が亡くなり、171人が重傷を負っています。それらの事故の高齢者（65歳以上）の比率をみると、「石油ストーブ」の事故では約62%を占め、「ガスこんろ」の事故では約46%、石油温風暖房器では45%を占めるなど、多くの製品で高齢者の比率が高くなっています。

製品事故を未然に防ぎ、便利な道具を安全に使うために、高齢者に多い製品事故の事例と安全に使うための注意点を学びましょう。

※製品事故：一般消費者が生活で用いる製品を使うことで消費者がケガなどをしたり、製品が壊れたりすることで消費者がケガなどをしたり、そのおそれがある事故。

やっぱり多い **燃焼** 機器の事故

高齢者に多い消費生活関連の製品事故のトップ3は、1位「石油ストーブ」、2位「ガスこんろ」、3位「石油温風暖房器」です。いずれも使用の際に注意しないと、やけどなどを負う危険があるほか、紙や布など燃えやすいものに火が燃え移り、火災発生の原因となったり、死亡・重傷などを伴う重大事故になったりする危険が高いという共通点があります。これらの事故は高齢者以外でも発生していますが、一般的に、高齢者は住居内での生活時間が多いこと、視覚・聴覚などの感覚機能や運動機能が低下していることなどから、若い年代よりもこうした事故が発生しやすくなっています。



引火に注意！



石油ストーブ



ガスこんろ



電気ストーブ

燃えやすいものを**火**に近づけないように！

消費生活関連製品の事故

(平成23年度～27年度：NITE 調)

品名	発生件数	死亡	重傷	軽傷	その他	高齢者比
石油ストーブ	117	29	10	20	58	62.2%
ガスこんろ	91	9	6	21	55	46.4%
電気ストーブ	78	15	0	10	53	39.4%
照明器具	62	1	1	0	60	38.3%
配線器具	52	3	0	2	47	34.4%
電子レンジ	46	1	0	2	43	38.0%
はしご・脚立・踏み台	45	1	29	15	0	23.1%
石油温風暖房器	33	5	1	11	16	45.2%
石油ふろがま	28	1	0	2	25	42.4%
その他	732	38	124	128	442	20.0%
合計	1,284	103	171	211	799	25.7%

参考：政府広報オンライン

例えばこんな **事故** が起きています



 取り外し式のカートリッジタンクに給油を行った後、ふたの締め方が不十分なまま石油ストーブ本体にセットした。その状態で点火したところ、タンクからこぼれた灯油に着火して火災が発生。住宅が全焼して1人が死亡、1人が重症。

 天ぷらなど揚げ物を調理中にその場を離れ、鍋の油が過熱されて出火し、火災が発生。建物が全焼し、1人が負傷。

 電気ストーブを使用中に、周囲の毛布や衣類などが触れて発火。電気ストーブとその周辺が焼える火災が発生し、1人が死亡。

家族で防ぐ高齢者の製品事故

～ 高齢者の身体機能の変化を理解し、製品を安全に利用できているか見守りましょう ～

高 齢になると、目が見えにくくなったり、聞こえにくくなったり、嗅覚や触覚などの感覚も鈍くなったりしてきます。筋力や握力も若いときに比べて弱くなり、反応や動作も遅くなったりします。注意力が散漫になったり、物忘れをしやすくなったりすることもあります。

また、高齢者の中には、安全装置などが付いていない古い製品を使っていたり、製品が経年劣化して故障したまま使い続けたりする人も少なくありません。また、新しいものに買い替えても、すぐにその使い方を覚えられず、自己流の使い方をすることもあります。こうしたことから、製品を利用する際に思わぬミスをして、事故が発生してしまうことがあるようです。

高 齢者の製品事故を防ぐためには、こうした高齢者の身体機能の変化や生活スタイルを、家族など周囲のみなさんもよく理解して、日頃から高齢者を注意して見守ることが重要です。

製 品事故は、高齢者本人が注意することはもちろん、周囲のみなさんも注意してください。認知機能や視力、聴力などが低下していないか、安全に利用できているかなどを観察し、危ないと思ったときは使用をやめさせるなど、必要のない事故を起こさないために、周囲のみなさんによる対策が大切です。

